

災害時の避難所 間仕切りセットのご提案

Partition-sets for refuge at disaster designed by the disabled, 2005 – 2011, AJU center for Independent living

災害時の避難所のプライバシーを確保
平時の備えにより地域の防災力を高める



特 長

- ☆ **簡単**…軽くて丈夫な素材のため、誰でも簡単に組み立て、片づけが可能。
- ☆ **省スペース**…重ねて収納できるためかさばらない。備蓄場所の確保が容易。
- ☆ **低コスト**…安価な素材を利用しているため、低コストで導入しやすい。
- ☆ **省資源**…何度も繰り返し使え、紙資源としてリサイクルが可能。

お問い合わせ先 社会福祉法人 A J U 自立の家
わだちコンピュータハウス 防災企画グループ
〒466-0025 名古屋市昭和区下構町 1-3-3

TEL 052-841-9888
FAX 052-841-3788
bousai@aju-cil.com



間仕切りセットの目的と効果

災害時の避難所をすばやく小区画に間仕切り、避難者（家族単位）のプライバシーを確保します。避難生活の不安を解消することで、エコノミークラス症候群に代表される不眠や脱水症状による2次被害を抑えます。誰でも簡単に組み立てられるので、地域住民による防災訓練のメニューに加えることで、自助、共助の意識を高めます。

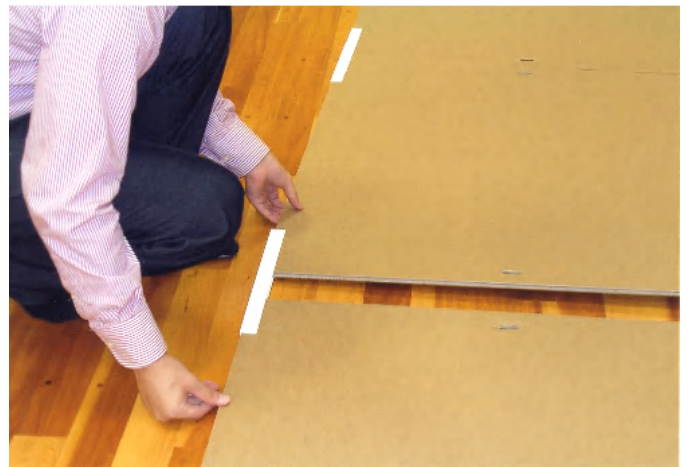
セットの特性

- 基本構成部品は4種のみ…**極限まで単純化!**
「仕切り板」と「連結ベルト」「U字フレーム」「カーテン」のみです
- 組立・組換え・解体がきわめて簡単…**道具や技術が全く不要**です
- **視覚によるプライバシー侵害防止**と**天井からの採光**を考慮
仕切り板の高さを180cmとし、身長190cm前後の人の目の高さに対応します
横長に置けば高さ1m×幅180cmの囲いとしても使えます
- **部屋の種類は、無制限**
トイレ、更衣室等用の6㎡、8㎡、9㎡、10㎡、12㎡、15㎡、16㎡、18㎡、20㎡以上等
任意の広さの部屋が簡単・自在に設置・変更できます
- 段ボール製だから廉価、輸送、管理コストも廉価、安全、繰り返し使えて**リサイクル可能**

さらに広く、さらに軽く
1000mm×1800mm
タイプ採用



シンプルな部品構成



組み立て方はきわめて簡単



地域の防災訓練での組み立ての練習と
避難所生活疑似体験



発災直後は救護室、着替室、授乳室として
福祉避難所のベッド間の仕切りにも最適

必要量・費用の算出方法



●基本セット構成は9㎡×1ブース

仕切り版 11 枚・短U字フレーム 12 個・連結ベルト 40 片・長U字フレーム 1 本・カーテン 1 枚

梱包サイズ：長さ 184 cm×幅 105 cm×高さ 15 cm 重さ：約 26 kg

●費用は、基本構成部品込み仕切り板 1 枚あたり換算で費用 **4,000円**(税別、送料別)

(原材料費高騰のため 2011 年 4 月より価格改定しました)

仕切り板の必要数算出法

●避難家族数と家族構成人数によって部屋の種類(広さ)と数を決定して算出します

●大人1人は3~4㎡部屋、2人家族は6~9㎡部屋、3人家族は9~12㎡部屋、4人家族は12~16㎡部屋、5人家族は15~20㎡部屋…、等の要領で割り当て、算出します

●部屋数(n)から仕切り板所要数を算出する計算式の例(単一種類の部屋配列の場合)

9㎡部屋	1列	$8n+3$
	背中合わせ2列	$6.5n+6$ (nは偶数)
12㎡部屋	長辺接続1列	$9n+4$
	短辺接続1列	$10n+3$
	長辺背中合わせ2列	$8n+6$ (nは偶数)
	短辺背中合わせ2列	$7.5n+8$ (nは偶数)

●避難者数から概算する方法

大人1人当たり2.5枚の仕切り板が必要と試算します(費用10,000円、税別、送料別)

例えば100人の避難者なら仕切り板250枚(概算総費用100万円、税別、送料別)と概算されます

組み立て手順

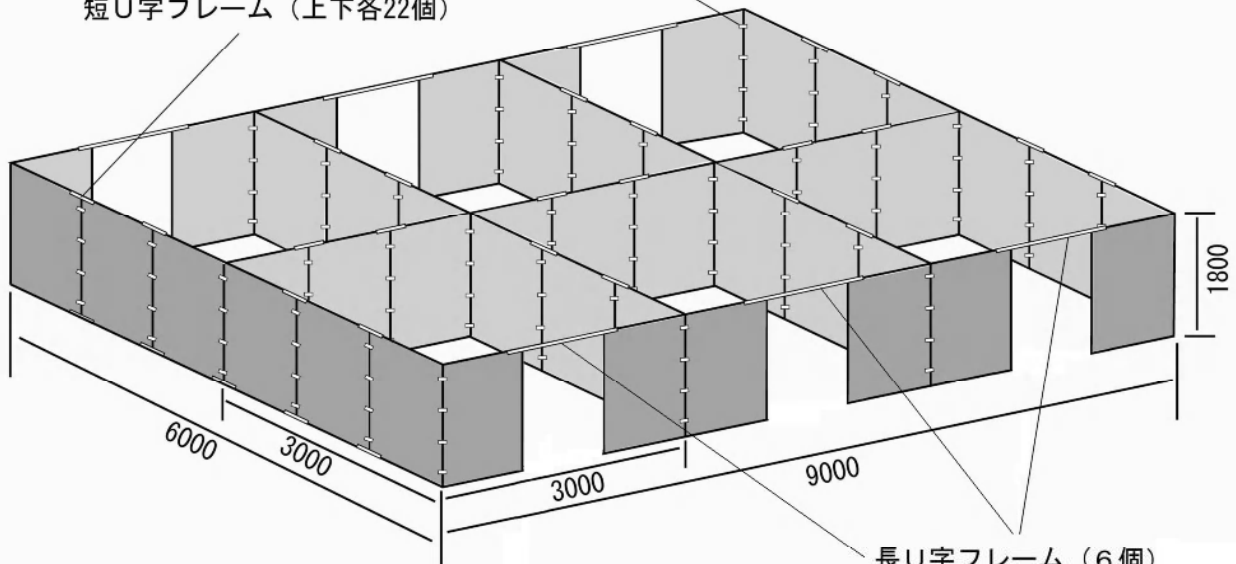


- ① **直線部**＝寝かせた状態で隣同士の仕切り板の上下コーナーに短U字フレームをはめ込み、必要枚数連結します
- ② **コーナー部連結ベルト**＝連結した仕切り板を立て、連結孔にベルトを通し、L字/T字/十字型に連結します
- ③ **直線部連結ベルト** 直線部は、コーナー部の連結後、立てた状態で行います
- ④ **出入口口上部**＝仕切り板1枚分の間隔を取り、長U字フレームにカーテンを通し、橋渡し状にはめ込み連結します

9㎡×6部屋仕様
仕切り板45枚

連結ベルト 136片(直線部22+十字部2
+T字部6+L字部)×4

短U字フレーム(上下各22個)



長U字フレーム(6個)
出入口口カーテン6枚

プライバシーの確保と間仕切りセット

災害時の避難所においては、誰もプライバシーのない生活を余儀なくされます。

初対面の人たちが大勢いる中で、自分の生活をさらけ出すことは多くの人にとって大変な苦痛となります。避難所生活が長期化すればするほど、食事や入浴やトイレと並んでプライバシーの問題は深刻さを増します。

弱い立場に置かれる例としてはまず、着替えをしたい女性と乳飲み子を抱えた若い母親でしょう。授乳スペースは避難所には準備されておらず、母親は日に何度となく、人目をはばかりながら授乳せざるを得ません。また、昼夜の別なく泣きやまない赤ん坊によって周囲の冷たい視線にさらされます。

さらには、疲れきって仕事から避難所に「帰宅」する人も、疲れを癒やすスペースがありません。避難所での1人当たりの占有スペースは非常に狭く、そこで自宅から持ち出した荷物や救援物資とともに生活せざるを得ません。そうした環境で最も多いトラブルのひとつは「いびき」です。家族との間でさえケンカの原因にさえなるのに、赤の他人のしかも極端にプライバシーが確保されない状況では、相当なストレスとなります。

足腰の弱ったお年寄りが夜中にトイレに行こうとして、他人の足を踏んでトラブルとなり、以来怖くてトイレに行けなくなったという例もあります。不眠や脱水症状により体調を崩し、入院するお年寄りも多くいるのが現実です。エコノミークラス症候群が話題となった車中生活は、プライバシー空間の私的確保の限界を浮き彫りにしました。

より個別の支援を必要とする災害弱者の問題も忘れてはなりません。寝たきりやおむつ替え等の介護を要する高齢者や障害者にとっては、周りの目や排泄のことが心配で避難所に避難できないと拒否する例が少なくありません。また傍目には気づかれにくい障害としては、自閉症や精神障害者の存在があります。被災のショックに加え、突然見知らぬ大勢の人たちの中で生活することは、パニックや病状の進行につながるからです。

こうした問題を解決する有効な手段のひとつが、避難所の間仕切りです。

北海道有珠山噴火(平成12年3月)、新潟県中越地震(平成16年10月)、中越沖地震(平成19年7月)の際には、救援物資として間仕切りが全国から送られました。しかし、現実には、すべての避難所に行き渡らせるという公平性が優先され、活用しきれないという課題を残しました。

自治体としては、避難所ごとに必要数を配備し、地域住民が日頃の防災訓練を通して組み立て方に慣れたり、運用のルールを確認する作業が重要です。



防災備蓄の要領

- 小、中学校や公民館等に設けられている防災備蓄倉庫に保管可能量のセットを分散備蓄します
- 半坪倉庫の容積があれば、仕切り板 120 枚(5 枚ケース入り 24 ケース)分のセットが収納できます
この量のセットで、1列9㎡部屋で14部屋(大人45人収容分)
背中合わせ2列9㎡部屋なら17部屋(大人51人収容分)ができます
- 防災訓練で間仕切り組み立てのメニューを取り入れることをお勧めします

参考 (体育館の小部屋群化イメージ)

仕切り板の使用数 515枚 収容人数165人



仕切り板の使用数 515枚 計165人収容 3人部屋(9㎡)30室90人 4人部屋8室(12㎡)30人
5人部屋(15㎡)3室15人 6人部屋(18㎡)2室12人 単身部屋(3㎡)8室8人 集会場(28㎡) 事務室(42㎡)
倉庫(18㎡) ボランティア要員室(12㎡)2室男女各5人 トイレ(10㎡)男女各5個用便室